
雨の日。

ともしや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の日。

【Nコード】

N1721J

【作者名】

ともじゃ

【あらすじ】

急に降り出した雨。

あたしは妹と2人で、バス停にママを迎えに行く。

バスから降りて来たのは、太った不細工のおばさんで……。

「遅かねえ、ママ」

あっちゃんが、水たまりをけとばしながら、言った。

「うん」

もう、20分くらいは待つとう気がする。

バスは何本もやっては来ようけど、ママは降りてきやせん。

夕方、雨は急に降ってきて、ざんざん降りになつとる。

寒い。

赤いままの折りたたみ傘を持つとう手が、じんじんしよる。

2

「あっちゃん、ママの傘、持たん？」

「いいよ」

あっちゃんは素直に傘を受けとった。

いつもは、ちつともあたしの言うことなんか聞かんのに。

どうしたとかいな、と思つとると、傘で地面にラクガキを始めよつた。

くふ。

ちよっと笑ってしまふ。

いっつも生意気ばっか言うくせに、ときたま、ロドモになるっちゃ
んね。

「なんしよごとよ、ガキ」

「なによあ。・・・とつっ」

「痛いイ」

傘で突いてきようもん。
たまらん。

ざあつ。

水しぶきをたてて、またバスが停まった。
12番。ママのじゃ、ない。

「ママのバス？」

「うっん、違つ」

「ちえ」

満員のバスから、どっと乗客が吐き出される。
やっほり、ママはいない。

「もつ。早よう来んかいなねえ」

言いながら、あっちゃんは植えこみの向こうに駆けて行った。
もう。

退屈なのはわかるけど、少しはおとなしくとってよね。

・・・あっちゃん、と呼ぼつとした時。

「ひゃっ・・・！！」

目の前でおばさんが転んだ。

どしゃあつ。泥水が飛ぶ。

思わず目をつぶった。うわあ。

かかとの高い靴が、片方脱げとる。
スーパージャラジャラ袋から野菜が転がって、割れたタマゴがのぞいた。

呆然としたまま、しゃがみこんでいるおばさん。
かたかたと傘が回る。

・・・情けなか。だっせえ。

瞬間、出てきた気持ちを、慌てて呑みこんだ。

ぶくぶく太った手足。
ぐりぐりのパーマ頭に、色つきメガネ。
派手な花模様の服。

そげんおばさんが、ずっとこけた様は、みっともないもんじゃ、ない。
だけど、そんなんは思っちゃいけないことやん。

立派な優しい人は、
「かわいそうに」思って、
手を差しのべんといかんっちゃけん。

ざっと、3秒くらいの間、そんな思いが駆けめぐった。
手伝わな。

昨日の道德の時間にも、西先生、言いよったやん。

「困ってる人を見たら、いたわりの心を持たんとね」って。
ほら、何しようど。早く。

なのに、あたしの足は動かなかった。

周りの人たちも、おばさんを横目で見て、素通りして行きよる。

中には気の毒そうな表情を向けて見せる人もおるけど、誰もおばさんを助けん。

白髪のおじいちゃんも、スーツ着とるおじさんも、きれいな女の人
も、セーラー服のお姉ちゃんも、誰も。

おばさんは傘をひろった。

「あああ、もう」

自分で自分ばしかって、靴をはく。

雨が降りよる。

つよく降りよる。

おばさんちの夕飯になる、にんじんと玉ねぎをぬらしよる。
じゃがいもも、ぬらしよる。

今夜、カレーっちゃんね。

そげん思ったあたしは、泣きとっなつた。

ばか。

ばかばかばかばか。ばか。

ここには立派な人げな、おらん。

優しか人げな、おらん。

いたわりの心げな、誰も持つとらん。

誰も。

みんな、口ばかりのウソつきやん。

ウソつきやん！

「おばさん、早う拾わんと」

声がした。

ふちの赤うなった目を、あたしは見開いた。

あっちゃん……。

あっちゃんだ。

肩でうまく傘を支えて、散らばった品物を集めよる。

「まあ、ありがとうね、お嬢ちゃん」

おばさんのぬれた顔が、わらった。

心が、ぎゅっとした。

あっちゃん。

あっちゃんってば……。

2、3歩離れたところに玉ねぎがある。

玉ねぎ。玉ねぎがあるよ。

あたしはかんだ。

左手で玉ねぎをつかむ。

「……はい」

おばさんに手渡す。

「ありがとう」

あたしはうつむいた。

なんか、なんか知らんけど、うつむいた。なんか。

あっちゃんが、ほい、と袋をおばさんに渡した。

あっちゃんらしい横着な態度。

それでもおばさんは、

「ありがとう」

をくりかえして、歩いていった。

あたしはあっちゃんを見た。

「なん？」

つん、としてあたしを見上げる。

「なんもなか」

思わず目をそらしてしまう。

あっちゃん。

いっつもきかん気で、わがままなヤツ。

乱暴で、男の子みたいにおぎょうぎも悪い。

ママは口ぐせんごとく言う。

「お姉ちゃんを見習わんね」

悪ガキはテレビアニメの主題歌を口ずさみはじめた。

「音痴」

「どことがよー」

バスが来た。

ママが降りて来たら、1番に駆けよるのはあっちゃんにゆずっちゃうろっ、とあたしは思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1721j/>

雨の日。

2011年1月3日23時02分発行